

■ pH の測定をする

専用の pH 電極を使用して、サンプルの pH を測定することができます。
ガラス電極と比較電極が搭載されている複合電極を使用することができます。
本計器ではガラス電極単極は使用できません。
本計器のチャンネル 1 で測定できます。

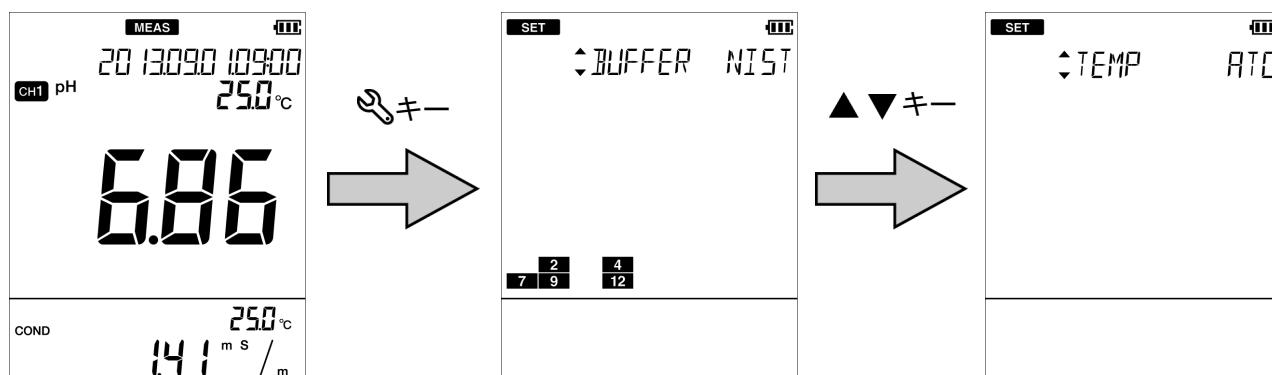
● 計器設定をする

・ 温度補償の設定をする（初期設定：自動温度補償（ATC））

温度センサ搭載型複合電極を使用するか、温度センサが搭載されていない電極の場合でも、温度補償電極を接続すると、自動温度補償機能を利用できます。pH 標準液校正時に標準液温度を測定し、その温度変化による標準液の pH 値の変化を補償することで、標準液温度に合わせた値で校正することができます（標準液設定が NIST、USA の場合のみ）。この機能を利用すると、サンプル温度に合わせて校正データの感度を補正します。ただし、各サンプルの温度特性に応じた pH 値の換算は行われませんので、得られた値は必ずサンプル温度の値と一緒に記録してください。サンプルによって、温度変化に伴う pH 値の変化の度合いは異なります。

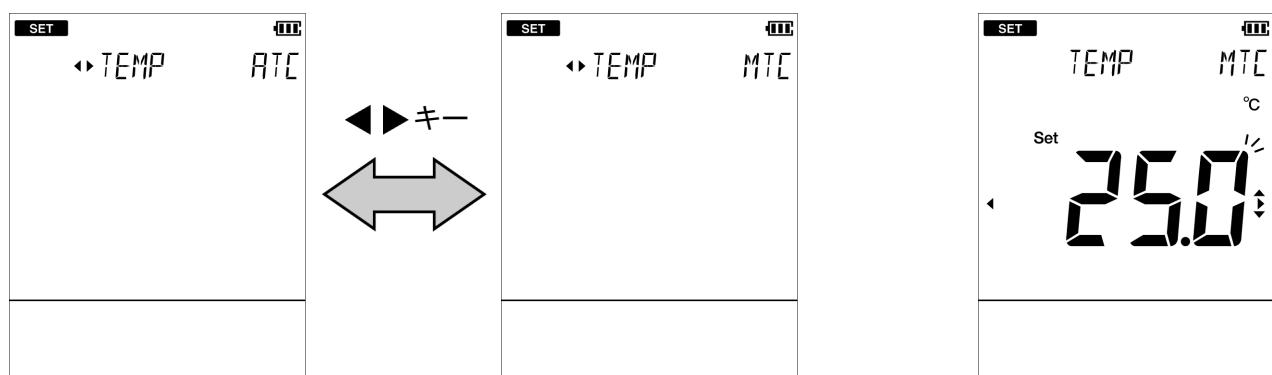
自動温度補償機能を利用しない場合、校正時には計器の温度設定を標準液の温度に合わせ、測定時にはサンプル温度を計器の温度設定に合わせて測定してください。これにより、温度による感度変化の影響を受けずに正しい測定値を得ることができます。

1. キーを押して設定モードに変更します。
2. ▲▼キーで「TEMP」（温度設定）を選択し、●キーを押します。



3. ◀▶キーで「ATC」（自動温度補償）または「MTC」（任意温度補償）を選択し、●キーを押します。
4. 「MTC」を選択した場合、補償する温度を入力し、●キーを押します。

< MTC に設定した場合 >



MEAS キー 押して測定モードに戻ったときに反映されます。